令和3年度

のむ村のむらの情報発信！！

事　業　名	酒文化の継承と活用
組　織　名	野村地域自治振興協議会

01　事業の背景

野村地区では、宝暦3年（1753年）に創業される酒蔵があるなど、古くから酒と地域の関わりは深い。また現在においても「サシアイ」などお酒との向き合い方は特有であり、地域外からの「野村（飲むら）」の見解にお酒が大きく影響していることから、酒文化を活用した地域おこしを実施することとなった。

02　事業の概要

○酒文化の地域定着と情報発信
酒トォ～～～ク事業、酒にまつわるPRソング（野村人煦）の活用、酒文化に関する冊子作成
○緒方らぼの開催
南予きずな博との連携
○のむむらのむら屋台村の開催
各地域行事との連携
○サシアイ文化の活用
○民泊利用者への酒文化の提供

03 事業の目標

酒トォーク参加者　150人（50人×3回）
うち子ども30人
緒方らぼ参加者　240人（60人×4回）
うち子ども40人
講座参加者　100人（50人×2回）
うち子ども40人
屋台村開催　400人（100人×4回）
うち子ども100人

04 事業の成果

コロナ禍により計画していた事業の一部が実施できなかったが、関係団体と協働し翌年度以降につなげる取り組みができた。酒文化の情報発信として２回の酒トォ～～～ク、ＰＲソングを西予市復興コンサートで初披露するなど精力的な動きを見せた。また酒文化に係る冊子を作成し、地域内外への情報発信に努めた。また緒方らぼ（南予きずな博を絡めて）にて酒文化に特化した事業を開催した。屋台村ではコロナ禍であり、夏の「竹あかり事業」とタイアップして開催した。全国の各会場とつながった竹あかり事業であっただけに、大きな情報発信であった。サシアイ文化については、コロナ禍により飲み会を始めとする多数の集まりが制限されたため、冊子での報告や各事業で取り上げ情報発信に留まった。なお民泊を活用した事業については、協力隊が設立したゲストハウス「entohouse」の利用者に標準を絞り酒文化を提供できた。。

05 こんなこと学びました！

コロナ禍により携帯電話、ＰＣ等によるオンラインでの会議等が増えていったが、やはり人は集まり、話し、飲むことが地域づくりの原点であることを改めて感じられた。

06 今後の展望

酒ﾄｫ～～～ｸの継続した開催、サシアイ冊子、野村人煦CDを活用した酒文化の情報発信、通年の屋台村の開催を継続する。また野村人煦を定期的に歌い、地域の元気づくりに寄与する。

07 最後にひとこと！

野村独特の酒文化を求めて市外県外より移住者が増えつつある。野村に造り酒屋はなくなったが、酒文化は永遠に引き継がれていくと確信している。

事業費の内訳

総事業費	1,091,747円

歳入

費　用	金　額	備　考
交付金	1,080,000	
地元負担金	6,000	
事業収入	5,747	
合計	1,091,747	

歳出

費　用	金　額	備　考
人件費	12,000	
委託料	501,772	
広告費	18,000	
事業費	27,528	
使用料	24,000	
報償費	378,700	
旅費	124,000	
使用料	1,086,000	